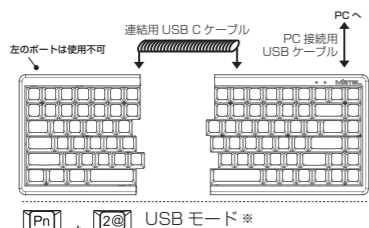


キーボードの準備 (有線接続 / USB モード)

■ 左右連結で使用する場合 / USB 接続で使用する場合

- 付属の連結用 USB-C ケーブルで左右のキーボードを接続します。
- USB 接続でパソコンと使用する場合は、付属の PC 接続用 USB ケーブルの USB-C コネクタを右キーボード (親機) の右側の USB-C ポートに接続し、USB-A コネクタをパソコンの USB ポートに接続してください。
- ML-MD770RBT-U シリーズでは、[PN] キーと [2] キーを押して USB モードを起動します。



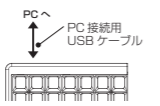
キーボードの連結を解除する場合は、必ず左のキーボードから取り外します。

△注意 左右のキーボードが連結用 USB-C ケーブルで接続されている場合、左キーボードに PC 接続用 USB ケーブルを接続してもキーボードは使用できませんのでご注意ください。

左右個別に使用する場合

本製品は左右のキーボードを単体で 사용할 ことができます。左右個別で使用する場合は、PC 接続用 USB ケーブルの USB-C コネクタをキーボードの USB-C ポートに接続してください。

- 右キーボードでは充電可能です。
- 左キーボードのみ使用する場合は「無線機能」「マクロ登録」「バックライト調整」「DIP スイッチ」は使えません。



キーボードの準備 (無線接続 / Bluetooth モード) ※

■ キーボードを充電する

※ ML-MD770RBT-U シリーズのみ

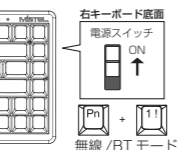
無線モードで使用する際は、PC 接続用 USB ケーブルの USB-C コネクタを右キーボード右側の USB-C ポートに接続して、USB-A コネクタを USB 給電機器 (※) に接続してください。

※ PC の USB ポートに接続時は USB モードが優先されます。Bluetooth モードへの切り替えはできませんのでご注意ください。

完全充電まで：約 2.5 時間 (※本製品は急速充電には対応しておりません。)

■ 機器の登録 (ペアリング)

- 付属の連結用 USB-C ケーブルで左右のキーボードを接続します。
- 右キーボード底面の電源スイッチを ON にします。
- [PN] キーと [1] キーを押して無線 / BT モードを起動します。
- 本製品は 3 つのデバイスチャンネルを使用して、3 台の機器とペアリングすることが可能です。下記表の切替操作を長押し (3 ~ 5 秒) することでペアリングモードになります。ペアリングモード時は LED2 がゆっくり点滅 (青色) した状態になります。



| デバイスチャンネル | 切替操作 (長押しでペアリング) |
|-------------------|-------------------|
| デバイス 1 (Mistel 1) | [PN] キー + [F1] キー |
| デバイス 2 (Mistel 2) | [PN] キー + [F2] キー |
| デバイス 3 (Mistel 3) | [PN] キー + [F3] キー |

- LED2 の点滅 (青色) を確認したら、接続先のデバイスで Bluetooth デバイスの検索を行い、手順 4 で選択したチャンネル (Mistel ~) を登録してください。

ペアリングが完了すると LED2 が消灯します。

■ ペアリング済みの機器で使用する場合 (チャンネルの切り替え)

- 左右のキーボードを連結して右キーボード底面の電源スイッチを ON にします。
- [PN] キー + [1] キーを押して無線 / BT モードを起動します。
- 前述「■機器の登録」の手順 4 の操作で使用するデバイスチャンネルを選択します。その際、キーは長押しする必要はありません。切替時は LED2 が 1 回点滅 (青色) して消灯します。(接続確立まで時間がかかる場合がございます)

■ 省電力機能 / スリープモードについて

- バッテリー駆動時に無操作で 10 分程度経過するとバックライトが自動的に消灯します。
- 2 分程度入力が無い場合省電力モードに移行します。省電力モードを解除する場合は右側キーボードのいずれかのキーを押してください。

[FN] [PN] キーについて

[FN] [PN] キーと特定のキーを同時に押すことで、メディアプレーヤーの操作やキーボードの動作設定、レイヤー切り替えなどが可能です。

例：電卓を起動する → [FN] キー + [Y] キーを同時に押す

| [Fn] | [FN] キーを押しながら下記操作 |
|----------------|-----------------------|
| [Q] キー | 前のトラック |
| [W] キー | 再生 / 一時停止 |
| [E] キー | 次のトラック |
| [S] キー | 音量上げる |
| [D] キー | 音量下げる |
| [F] キー | ミュート |
| [P] キー | [PrtSc] キーと同じ動作 |
| [左 (大括弧)] キー | [Scroll Lock] キーと同じ動作 |
| [右 (大括弧)] キー | [Pause] キーと同じ動作 |
| [； (セミコロン)] キー | [Insert] キーと同じ動作 |
| [H] キー | [Home] キーと同じ動作 |
| [N] キー | [End] キーと同じ動作 |
| [1] キー | [1] キーと同じ動作 |
| [J] キー | [←] キーと同じ動作 |
| [K] キー | [→] キーと同じ動作 |
| [L] キー | [1] キーと同じ動作 |
| [Z] キー | [APP / Menu] キーと同じ動作 |
| [Y] キー | 電卓を起動 |

| [Pn] | [PN] キーを押しながら下記操作 |
|--------------------|--------------------------|
| [` (シングルクォート)] キー | キーボード配列変更 |
| 左 [Windows] キー | 左 [Windows] キーロック |
| [M] キー | 初期レイヤー |
| [. (カンマ)] キー | レイヤー 1 |
| [/ (ピリオド)] キー | レイヤー 2 |
| [/ (スラッシュ)] キー | レイヤー 3 |
| [1] キー | 無線 / BT モード ※ |
| [2] キー | USB モード ※ |
| [F1] キー | デバイスチャンネル 1 (Mistel 1) ※ |
| [F2] キー | デバイスチャンネル 2 (Mistel 2) ※ |
| [F3] キー | デバイスチャンネル 3 (Mistel 3) ※ |

※ ML-MD770RBT-U シリーズのみ

DIP スイッチについて

△注意 DIP スイッチの操作は必ずキーボードの電源をオフにして、パソコンからケーブルを全て取り外した状態で行ってください。ケーブルやパソコンに接続したまま操作すると故障の原因になります。

本体底面にある DIP スイッチでは、特定のキーの機能を変更することが可能です。スイッチを上 (オン) にすることで機能が有効になります。DIP2 ~ 4 のスイッチは複数オンにして使用することが可能です。Windows や Mac などご利用の環境に応じて設定を変更してください。

※工場出荷時は全て OFF (スイッチ下) 状態。

例：DIP2 と 4 がオンの場合

左 [CTRL] キー が [CapsLock] キーとして機能し、[CapsLock] キー が [FN] キーと入れ替わります。

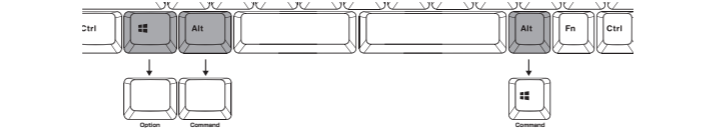
| DIP No | DIP スイッチ OFF | DIP スイッチ ON |
|--------|---------------------------|--------------------------------------------|
| DIP1 | macOS モード 無効 = Windows 用 | macOS モード 有効 |
| DIP2 | 左 [CTRL] キー [CapsLock] キー | ⇒ [CapsLock] キーとして機能 ⇒ 左 [CTRL] キーとして機能 |
| DIP3 | 左 [ALT] キー | ⇒ 左 [Windows] キーとして機能 ⇒ 左 [ALT] キーとして機能 |
| DIP4 | [CapsLock] キー [FN] キー | ⇒ [FN] キーとして機能 ⇒ [CapsLock] キーとして機能 |

macOS モードの動作 (DIP 1 が ON の時のキー動作)

MacOS のキーボード配置を再現するためにキーの動作を変更したモードです。

● [Option] キー / [Command] キー機能の追加

左 [Windows] キーと左 [ALT] キーが入れ替わり、[Option] キーと [Command] キーの機能が追加されます。



左 [Windows] キー (Command) ⇒ 左 [ALT] (Option) キーと入れ替え
右 [ALT] キー ⇒ 右 [Windows] (Command) キーに変更

● マルチメディアキー機能

| キー | 動作 | キー | 動作 |
|----|--------------------------|-----|-------------------|
| F1 | ディスプレイ輝度を下げる *1 | F7 | 前のトラックへ *4 |
| F2 | ディスプレイ輝度を上げる *1 | F8 | トラックの再生 / 一時停止 *4 |
| F3 | Mission Control | F9 | 次のトラックへ *4 |
| F4 | LaunchPad *2 | F10 | ミュート (消音) |
| F5 | 本製品の RGB バックライト輝度を下げる *3 | F11 | 音量を下げる |
| F6 | 本製品の RGB バックライト輝度を上げる *3 | F12 | 音量を上げる |

※ 1：ラップトップ / ノート機種のみ機能します。外付けディスプレイでは動作しません。

※ 2：Launchpad キーとして使用する際は、macOS 側で設定が必要です。

ー設定方法ー

- アップルメニュー → 「システム環境設定」 → 「キーボード」の順に選択します。
- 「キーボードショートカット」 ボタンを押します。
- リストから [Launchpad と Dock] を選択します。
- 右側に表示されたリストの [Launchpad の表示] のチェックボックスをオンにし、右端のキーコンピネーション欄をクリックし、[F4] キーを押して設定してください。

※ 3：本製品のバックライトがオンの時に動作します。

※ 4：Apple Music などのメディアプレーヤーが起動中の時に動作します。

キーのロック / 配列変更

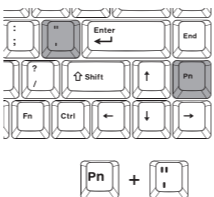
■ 左 [Windows] キーをロック / 解除する

[PN] キー + 左 [Windows] キーを同時に押すと、左 [Windows] キーがロックされます。ロックを解除する場合、再度上記操作を行ってください。

■ キーボード配列切り替え機能

[PN] キーと [` (シングルクォート)] キーを同時に押す回数に応じて下記の通りキーの機能が切り替わります。

[QWERTY] (初期設定)
↓
[DVORAK] (x が q として入力されます)
↓
[COLEMAK] (n が k として入力されます)



マクロ機能 / レイヤーの切り替えについて

マクロ機能とは、任意のキーに任意の動作 (マクロ) を割り当てることができる機能です。

例：[H] キーに [Space] キーの機能を割り当て

→ [H] キーを押した時に [H] が入力されず [Space] キーとして動作します。

マクロ機能では、複数のキーに設定されたマクロセットを 1 レイヤーとしてグループ化でき、仕事やゲームなど用途に応じてキーボードの機能や配列を使い分けることができます。レイヤーは初期のキーボード配列 (= 初期レイヤー) とは別に最大 3 レイヤー登録することができます。

△注意

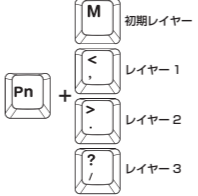
・初期レイヤーにはマクロ登録はできません。

・[FN] キーおよび [PN] キーへのマクロ登録はできません。また、[PN] キーと同時押しすることで動作する機能をマクロとして登録することはできません。

■ レイヤーの切り替え

下記のキー操作でマクロ登録するレイヤーを選択します。

| 選択レイヤー | 切替操作 | LED1 の状態 |
|--------|---------------------------|----------|
| 初期レイヤー | [PN] キー + [M] キー | 消灯 |
| レイヤー 1 | [PN] キー + [.< (カンマ)] キー | 赤色 点灯 |
| レイヤー 2 | [PN] キー + [./ (ピリオド)] キー | 緑色 点灯 |
| レイヤー 3 | [PN] キー + [/ (スラッシュ)] キー | 青色 点灯 |



■ マクロの登録手順

マクロを登録する前に DIP スイッチ を全てオフにしてください。(参照：DIP スイッチについて) 途中 30 秒間キー操作が無い場合、マクロ登録前の状態に戻りますのでご注意ください。

1. マクロを登録するレイヤーを選択する

前述「レイヤーの切り替え」を参照してマクロを登録するレイヤー選択します。

2. マクロ登録モードを起動する

[FN] キー + 右 [CTRL] キーを押して離すと LED1 が点灯 (白色) してマクロ登録モードが起動します。この時バックライトが全点灯 (緑色) します。

3. マクロを登録するキーを押します

→ LED1 が点滅 (白色) し、マクロを登録するキーのバックライトが点灯 (赤色) します。

4. マクロを登録します

登録したい (キー) を押して、最後に [PN] キーを押すと LED1 が点灯 (白色) して登録内容が保存されます。マクロが登録されているキーのバックライトも点灯 (赤色) します。

例：[L] キーを押したときに [P] キーとして動作するマクロを登録する場合は、手順 3 で [L] キーを押して手順 4 で [P] キーを押します。

5. 手順 3 と手順 4 を繰り返し、その他のキーにも登録します。

6. マクロ登録モードを終了する

全ての登録が完了したら [FN] キー + 右 [CTRL] キーを押して離すと LED1 とマクロを登録したキーのバックライトが消灯してマクロ登録モードが終了します。

■ 遅延間隔の設定

遅延間隔では、マクロ登録されたキーの入力間隔を設定することができます。

設定は 手順 4 で登録したい内容を入力する際、下記のキーを併用することで遅延間隔を設定します。

[FN] + [T] → 15ms 追加
[FN] + [G] → 0.1s 追加
[FN] + [B] → 0.5s 追加

例：遅延間隔を 1 秒 (0.5s × 2) に設定する場合は、[FN] キーと [B] キーを 2 回入力します。

設定例

[N] キーを押した際に [NO] と入力されるマクロで、[N] と入力された後 1.1 秒後に [O] が入力されるマクロを登録する場合

- 手順 3 で [N] キーを押して、手順 4 で [N] キーを押します。
- 遅延間隔を設定します。[FN] キーと [B] キーを同時に 2 回、[FN] キーと [G] キーを同時に 1 回押します。
- 続いて [O] キーを押します。

■ 登録済みのキーに別のマクロを登録する方法

手順 3 でマクロを変更したいキーを 2 回押します。LED1 が点滅 (白色) したら手順 4 に進みマクロを登録してください。

■ 登録されているマクロを消去 (元のキーに戻す) する方法

手順 3 でバックライトが点灯 (赤色) しているマクロ登録済みのキーの中から、マクロを消去するキーを 1 回押すとマクロが消去されバックライトが消灯します。手順 6 の操作でマクロ登録モードが終了します。

■ リマップ手順

リマップする前に DIP スイッチ を全てオフにしてください。(参照：DIP スイッチについて)

1. リマップするレイヤーを選択する

「マクロ機能 / レイヤーの切り替えについて」を参照して、リマップするレイヤーを選択します。 ※以降 [PN] キーをリマップする場合は [FN] を [PN] に置き換えてお読みください。

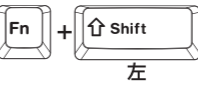
2. ML-MD770RBT-U の場合

[FN] キーと左 [Shift] キーを同時に長押しして、LED1 が点滅 (赤色) したらキーを離します。バックライトが点灯 (青色 ※) し、LED1 は選択中のレイヤーを示す点灯色に戻ります。 ※無線 / BT モードでの操作時は、左側キーボードのバックライトのみ点灯となります。

ML-MD770R-U の場合

[FN] キーと左 [Shift] キーを同時に長押しして、LED1 が 3 回点滅 (白色) したらキーを離します。バックライトが点灯 (青色) し、LED1 は点滅 (白色) します。

3. リマップ (移動) 先に設定するキーを押すと、バックライトが消灯しリマップが完了します。



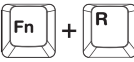
リセット / 工場出荷時の状態に戻す

△注意

- リセット操作の前に「DIP スイッチについて」を参照して DIP スイッチ を全てオフにしてください。
- レイヤーを初期化すると、マクロ設定や [FN] / [PN] キーのリマップ設定、RGB バックライトの設定が全て工場出荷時の状態に戻ります。
- 工場出荷時の状態にリセットしてもペアリング情報は保持されます。

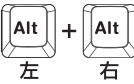
■ 選択中のレイヤーをリセットする (初期レイヤーと同じ配列にする)

- 「マクロ機能 / レイヤーの切り替えについて」を参照して、リセットするレイヤーを選択します。
- [FN] キーと [R] キーを LED1 が 5 回点滅 (白色) するまで、同時に長押しします。LED が消灯したらリセット完了です。



■ 全てのレイヤーを工場出荷時の状態にする

左 [ALT] キーと右 [ALT] キーを LED1 が 5 回点滅 (白色) するまで、同時に長押しします。LED が消灯したらリセット完了です。



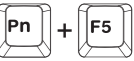
リセット操作後は、本製品の電源を OFF にして接続しているケーブルを全て取り外し再度接続することをお勧めいたします。

RGB バックライトについて

△注意

無線使用時にバックライトを点灯するとバッテリーの消費が増しますのでご注意ください。

[PN] キーと [F5] キーを押す毎に、バックライトの発光パターンを下記表の点灯順に切り替えることができます。



■ 発光パターンの種類と順番

| 点灯順 | 発光パターン | カラー調整 | スピード調整 |
|-----|--------------------------------------------|-------|--------|
| 1 | 全点灯モード | ○ | × |
| 2 | Breathing モード | | |
| 3 | Cycling モード | | |
| 4 | Wave モード (ML-MD770R-U シリーズの初期設定) | | |
| 5 | Rain drop モード | | |
| 6 | Reactive モード | × | ○ |
| 7 | Ripple モード | | |
| 8 | Rotating モード | | |
| 9 | Snake モード | | |
| 10 | WASD・矢印 / カスタムカラーモード (後述) | | × |
| 11 | 無点灯 (バックライト OFF / ML-MD770RBT-U シリーズの初期設定) | — | — |

■ バックライトの操作と設定変更

バックライトの操作と設定変更は [PN] キーと一部のキーを組み合わせで行います。

カラーパレット

[PN] キーと [ESC] キーを同時に押すとカラーパレット表示が表示されます。前述「発光パターンの種類と順番」の「カラー調整」欄が [O] のモードの配色調整時に使用します。

カラー調整

前述「発光パターンの種類と順番」の「カラー調整」欄が [O] のモードの配色調整時に使用します。下記記載の通りキーを 1 回押す毎に RGB の明るさが 1 段階明るくなります。(10 段階)

- [PN] キーと [F6] キーを同時に押す = カラー配色調節 (R 赤)
- [PN] キーと [F7] キーを同時に押す = カラー配色調節 (G 緑)
- [PN] キーと [F8] キーを同時に押す = カラー配色調節 (B 青)

輝度調整 (消灯含む 11 段階)

- [PN] キーと [↓] キーを同時に押す毎に輝度が暗くなります。
- [PN] キーと [↑] キーを同時に押す毎に輝度が明るくなります。

速度調整 (5 段階)

- [PN] キーと [←] キーを同時に押す毎に変色速度が遅くなります。
- [PN] キーと [→] キーを同時に押す毎に変色速度が速くなります。

バックライトオフ (消灯)

[PN] キーと [O] キーを同時に押すと 前述「発光パターンの種類と順番」の「11・無点灯 (バックライト OFF)」に切り替わります。

■ カスタムカラーについて

バックライトの配色を調整してレイヤー毎に割り当てたり保存することができます。ここで保存された配色は「10・WASD・矢印 / カスタムカラーモード」で使用されます。カスタムカラーモードの初期点灯パターンは、WASD と矢印キーが点灯した状態です。[PN] キーと [F10] キーを同時に押す = カラー配色調節 (G 緑) キーを同時に押す = カラー配色調節 (B 青) カスタムカラーモード中に再度 [FN] キーと [F10] キーを同時押しすると、バックライトオフに切り替わります。

カスタムカラーの設定方法

△注意

カスタムカラーを設定する前に「DIP スイッチについて」を参照して DIP スイッチ を全てオフにしてください。

- 「マクロ機能 / レイヤーの切り替えについて」を参照して、配色を変更したいレイヤーを選択します。
- [PN] キーと [F10] キーを同時に押してカスタムカラー発光モードを呼び出します。
- [PN] キーと [F9] キーを同時に押してカスタムカラー編集モードを起動します。
- カラー調整には 2 つの方法があります。
 - 前述の「カラー調整」を参照して調整したい色 (RGB) を選択する。
 - 前述の「カラーパレット」を参照して調整したい色 (RGB) を選択する。
- 点灯調整したいキーを押すと手順 3 で選択した色が登録されます。キーを 1 回押すと選択された配色で点灯します。同じ配色で点灯させたいキーがある場合はそのまま点灯させたいキーを押してください。配色をやり直す場合は、再度キーを押して消灯状態にするか手順 3 の手順で再度色を選択した後、配色をやり直したいキーを押してください。
- 配色設定が完了したら [PN] キーと [F9] キーを同時に押してカスタムカラー編集モードを終了します。カスタムカラー編集モードが終了したら自動的にカスタムカラー発光モードになり、配色設定に従ってバックライトが点灯します。